

令和3年度 第1回八潮市外部評価委員会 議事録

開催日時	令和3年11月25日(木)から12月7日(火)まで	開催 場所	書面開催
出席者 (敬称略)	委員長：島根 秀行 委 員：若尾 岳志 清水 努 竹本 美恵子 秋元 理香		
欠席者	書面開催により、なし	傍聴 者数	-
審議内容及び審議結果の概要	1. 評価対象事業の説明 2. 評価に関する質問 3. 議事 (1)事務事業評価 ①地域支援事業【長寿介護課】 ②子ども医療費支給事業【子育て支援課】 ③リサイクルプラザ管理運営事業【環境リサイクル課(リサイクルプラザ)】 (2)年次事業評価 ①八潮市障がい者福祉施設やまびこ【障がい福祉課】 質問シートにより各委員から質問が提出された。 主な質問は、別紙のとおり。		
提供資料	資料1：令和3年度第1回八潮市外部評価委員会(書面開催)次第 資料2：令和3年度第1回外部評価委員会事務事業評価・年次事業評価シート 資料3：説明用資料 参考資料1：平成27年度八潮市行政評価における外部評価報告書(抜粋) 参考資料2：八潮市障がい者福祉施設やまびこ参考資料		

開催方法については、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、全委員の承認を得たのちに書面開催とすることを決定した。

(1) 事務事業評価

番号・事業名	①地域支援事業	担当課	長寿介護課
事務事業評価に対する主な質問	・「成果指標」の設定はできないのか。高齢者がいきいきとしているかどうかは指標にしにくいと思うが、予防については八潮市の高齢者住民に占める要介護者の割合などで、容易に数値化できるのではないか。（要介護認定が適正に行われていることが前提となるが） この事業が事業目的に対してどれくらい成果をあげているのかが資料からわからない。総合評価において「概ね順調」とされている判断理由が手段についてであって、その結果がわからないと正しく事業を評価できないのではないか。どんなことでもいいので具体的な成果を教えてください。 ・活動指標の「計画」の数値の基になっている数値はどのように策定しているのか。例えば体操教室参加者数の「713人」は八潮市内の70歳～79歳の全住民数か。あるいは前年度ベースとなっているのか。体操教室の開催数・収容人数から割り出したものか。 認知症サポーター数の「計画」の数値の基になっている数値も同様に教えてください。 また、体操教室や認知症サポーター養成講座に費用は掛かるのか。参加者は料金を支払うのか。 ・「公益性の評価」について、使用料・手数料等を定めることのできないものばかりなのか。なんらかの有料の支援事業を実施するとしたら、本事業とは別枠になるのか。受益者には、認知症サポーター養成講座を受講するような若い世代も含まれているのか。 ・「フレイルチェック事業」（事務事業評価シートの裏面に記載）とは、具体的にどのように実施しているのか。また、表面の「事業概要」や「事業の実施状況（見込み）」の欄には、当該文言が出てこないが、記載されていないのか、別の表現がなされているのか、教えてください。		
当該事業に対する主な質問・意見等	・令和3年度の予算と決算の差額が非常に大きい（すべての項目において差が出ている）のはなぜか。前年度ベースとした場合でも令和元年度の決算と令和2年度の予算の差が大きく、結局令和2年度の決算は令和元年度の決算との差はそれほど大きくなっていないのに、令和3年度の予算は、令和3年度の予算に近くなっているのはなぜか。コロナ禍の影響があるとすれば、どのように出ているのか。 委員報酬について、令和元年度と比較すると、令和2年度と令和3年度は減額されているが、要因はなにか。 ・高齢者ないし要介護者の虐待防止について（介護保険法第115条の45第2項第2号）は、この事業の範囲か。どのような取り組みをしているか。 また、他の事業（高齢者保健事業）との連携は、どのように行っているのか。（介護保険法第115条の45第6項など。）本事業の中で実施されているのか。 ・八潮市の健康寿命に関するデータはあるか。また、どのようにになっているか。 ・高齢者の増加に伴い、介護予防の強化、認知症の正しい知識と理解が一段と必要になってきている。幅広い年齢層に学習の機会の提供、情報を活用して、「サポーターステップアップ講座」を開催してください。広報活動をもっと充実してください。		

番号・事業名	②こども医療費支給事業	担当課	子育て支援課
事務事業評価 に対する主な 質問	・「成果指標」の「就学前児童にかかる登録率」が令和元年度と比較し、わずかですが下がっているが、なぜか。 また、こども医療費の支給対象は中学校修了までだが、あえて就学前児童にしたのはなぜか。（就学後の児童については100%なのか） ・活動指標の令和2年度の「計画」の支給金額は、令和2年度予算のどの項目になるのか。（「扶助費」の中に含まれる、という理解でよいのか。実績と決算は一致しているが、計画と予算に差額が出るのはなぜか。）		
当該事業に対 する主な質 問・意見等	・令和2年度の決算額が、令和元年度と比較し、大幅に減っているが、なぜか。（コロナ禍の影響があるのか。どのように出ているのか。） ・八潮市の中学校修了までの子どもの数はどの程度いるのか。支給件数の「計画」が年間21万件近くとなっているが、これは一般に日本の「子ども」が医療を受ける件数と比べて、多いのか。それとも少ないのか。 ・現在のこども医療費の支給は、八潮市の区域内に住所を有することも（条例第2条第2項）となっていると思うが、市外に住居を有することもケガなどで市内の病院に訪れた場合（スポーツの試合などが市内で開催され、市外のこどもが試合のために訪れてケガをするなど）、医療費の支給は行わないということになるのか。 「県内全域での現物給付化」というのは、県内市外の病院の窓口で保険診療の自己負担を払わずに済むということでしょうか。 県内現物給付化のメリット・デメリットと今までできていなかった理由を教えてください。 ・現在、当該事業は八潮市条例に基づいて支給されるが、今後は「県内全域」で現物支給化を目指すということは、埼玉県の実業になるということか。（市としての事業としては発展的解消となるのか）		

番号・事業名	③リサイクルプラザ管理運営事業	担当課	環境リサイクル課（リサイクルプラザ）
事務事業評価 に対する主な 質問	・活動指標の「計画」が空欄であるが、予算を組むのであれば、「見込み」を出していると思います。「計画」という表現には合わないかもしれないが、前年度ベースでも「計画」は立てていないのか ・成果指標の資源化率を85%としているのは、何に基づいた数字か。平成25年度・26年度と比較し、1%上がっている理由はなにか。 ・「不法投棄」については、平成27年度の「事業の実施状況」の欄に登場するが、その年以外の「事業の実施状況」には記載がありません。今回の事務事業評価シート裏面の「課題」には「不法投棄」が記載され、説明資料にも「不法投棄」についての記載があった。 不法投棄については対応が必要な重要な課題であり、「事業の実施状況」に記載するものではないか。 また、「不法投棄」の問題に関して、警察などと連携を取ることはしていないのか。		
当該事業に対 する主な質 問・意見等	・プラスチックの資源化については、現在、どのようになっているのか。 ・埼玉県東南部地域の5市1町でのごみの処理、リサイクルについて、連携をとっているのか。または、今後、連携することがあるのか。 ・ペットボトルの回収方法が今年度から変更になったが、予算額にあまり変動がないがどこから支出しているのか。また、どういった経緯でこのようなペットボトルの回収方法になったのか教えてほしい。 ・ペットボトルの出し方の変更は評価大。各町会も徹底している。		

(2) 年次事業評価

番号・事業名	④ 八潮市障がい者福祉施設やまびこ	担当課	障がい福祉課
年次事業評価に対する主な質問	・年次事業評価シート【施設の利用状況】における「来館者（数）」と活動指標の「通所者（数）」の違いはなにか。この通所者とは、どのような人のことか。（この令和2年度の実績の「66」という数字はどのような数字か） また、成果指標の「稼働率」の分母と分子はどのような数値を入れているのでしょうか。「やまびこ」だけで見た場合、開館日数 241×定員 40（生活介護(10)+就労継続B(30)）を分母とし、来館者数（2109+5302）を分子としているという理解でよいのか。（「やまびこ」だけでみると、稼働率は 77%程度になるのか） 活動指標・成果指標とも、「わかくさ」と「虹の家」を合わせた数字ということですが、「やまびこ」の評価をする場合には、「やまびこ」のみの数字があると助かる。 ・利用者満足度の結果は良いものだと思うが、1つだけ「非常に不満」につけられている。原因と対応はどのようなものなのか、わかる範囲・お話しできる範囲で教えてください。 ・年次事業評価結果について、「②管理執行体制に関する事項」のうち、「業務を遂行するための必要な職員は確保されているか」に関して、届出書による確認を行っているか。またタイムカードなどの裏付けの確認を行っているか。 ・「業務に従事する職員は、関係法令を遵守しているか」に関して、職場内研修を実施していることを確認しているが、研修だけでは遵守していると言い切れない部分もあるかと思うが、他に確認したり、注意していることはあるか。 ・コロナ禍対策で「リモート」を活用したとありますが、どのように活用したのか。もし、リモートでの当該施設の利用があったとする場合、「来館者」になるのか。コロナ禍の収束後、「リモート」の活用は継続していくことになるのか。 就労継続Bや生活介護でどのようにリモートを活用したのか。あるいはこれから利用される予定なのか。在宅でのサービス利用なども行っているのか。生活介護でも利用者がリモートでサービスを受けることはあるのか。		
当該事業に対する主な質問・意見等	・「生活介護」とは、実際どのようなことをしているのか、具体例を教えてください。（就労継続Bについては、知的障害の方を対象に、消しゴムの組み立て作業、お菓子入り玩具の封入作業、ゴムシートのバラシ作業、ポスティング、タオルたたみ作業などを行っているネット上で紹介されていた。） ・コロナ禍の中で、稼働を継続されたようだが、コロナ禍の対応作業の増大（人件費の増大）、手指消毒剤等の消耗備品の増大があったと思います。コロナ禍以前と比べ、いわゆるコロナ禍の対策費のような経費は増えたか。また、増えたとしたら、どの程度増えたか。（年次事業評価シートの【管理経費の収支状況】では、支出が減っているように見えるが、なぜか）		